

## 院内研究集会記録 (2012年)

### 大原総合病院 (本院) 医局勉強会

2月15日

清水病院精神科 鈴木喜明

「高齢入院患者の不眠治療」

4月18日

本院内科 谷 牧夫

「新しい糖尿病治療薬」

5月16日

本院耳鼻咽喉科 國井美羽

「睡眠呼吸障害について」

7月18日

本院病理診断科 内海康文

「子宮頸癌とHPV ワクチン」

11月21日

本院外科 青砥慶太

「単孔式腹腔鏡下虫垂切除術 さらなる低侵襲化をめざして」

腹腔鏡下虫垂切除術は1980年9月13日にSemmが行って以来、我が国でも1996年に保険収載となり、現在では広く行われるようになっていっている。大原総合病院外科において虫垂切除術は平成23年1月1日から12月31日までの一年間に30例行われ、そのうちの9例(30%)が腹腔鏡下の手術でその2例(7%)は単孔式での手術であった。単孔式腹腔鏡下虫垂切除術は皮膚切開が臍下部のみであるため術後の痛みが少なくかつ整容性が高いという利点があるが、器具同士が干渉しやすく、動きに制限が出て手術の難易度が上がってしまうという難点がある。

今回、当院外科にて施行した単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の症例を術中動画も含めて紹介・報告する。

12月19日

本院眼科 鈴木勝浩

「アトピー性皮膚炎と眼合併症」

アトピー性皮膚炎は体質的な湿疹であり、人口の20~25%を占め、年齢とともに治癒する傾向が大きい病気である。皮膚炎に伴う眼合併症は、眼瞼皮膚炎以外に、角結膜炎、円錐角膜、白内障、網膜剥離等があげられる。白内障は囊下混濁を伴う事が多い。網膜剥離は毛様体裂孔を原因とするものが多く、原因裂孔の発見は困難である。

代表症例を提示する。受診時34歳の男性、高度の白内障と眼圧上昇があり、手術目的で紹介となった。両眼に白内障手術を施行したが、硝子体混濁が強く、十分な視力改善は得られなかった。術前より、網膜剥離の合併を疑っていたが、術後に右眼に網膜剥離を認めた。硝子体手術を施行し、内視鏡にて毛様体裂孔を確認した。その後、左眼も剥離を確認し、硝子体手術を施行した。左眼は術後、黄斑浮腫を発症した。更には、両眼ともに続発緑内障を発症し、左眼には緑内障手術(トラベクトミー)を施行した。その後の通院が途絶え、再度受診した時には、眼圧は高く、視野も著明に悪化しており、右眼の手術が必要であった。手術治療は困難である事が予想されたが、新しく認可された緑内障インプラント製剤のExpressを用いる事で、手術時の安全性を高め、合併症の軽減が期待できると考え、使用した。その後、現在までの経過は良好である。

本症例は、両眼ともに白内障手術、網膜剥離(硝子体)手術、緑内障手術を必要とした。本症例ほどではないにせよアトピー性皮膚炎の患者において、眼合併症を伴う事は多い。

近日、アトピー性皮膚炎の仕組みと原因蛋白質を特定したと報告があった。更なる原因の究明と治療方法の開発により、多くのアトピー性皮膚炎患者への朗報が待たれる。